

国見町総合計画審議会 各専門部意見抜粋

会議名 第1回国見町総合計画審議会 移住・定住、地域間交流専門部会

日時 令和4年4月15日（金） 15:00~16:30

概要（事務局説明後の各委員意見抜粋）

- 国見町では、居住のハード面がある中で、それを知るきっかけや決定打になる要素について、どのようにプロモーション等を進めていくのかを確認したい。
- 地元と移住者が相談できる体制があることが大切。
- 総合計画の基本理念である「命を大切に 誰もが幸せに暮らせるまち くにみ」の「国見で暮らす幸せ」とは何か。もう少し役場の職員や関係する皆さんで「国見暮らす幸せ」を整理してから、具体的な取組を検討した方がいいのではないか。
- 国見町に住むことで幸せになれるような人たちに対して、ターゲットを絞ってプロモーションしてもらえればと思う。
- 国見町で生まれ育った人が、国見町を好きになれるような施策を行ってほしい。国見町で生まれた人が、国見町から出ていってしまう状況を何とかしたい。国見で働けなくとも、福島市や伊達市、桑折町などで働きつつ、国見町に居住し続けられるような環境づくりを目指してほしい。
- 国見町を選んでもらえる決め手は何か。それを尖らせてもらいたい。
- 移住施策だけでなく、定住に向けた施策も充実するために、移住者の声を聞きながら施策を検討してほしい。
- ふるさと納税の返礼品はいろいろな商品があり驚いた。震災後の罹災証明の体制整備が速い。震災への対応の速さが実感できた。
- 住んでいる地域から商業施設までの距離が遠い点がマイナスポイント。買い物について、車がない人などの代替手段が必要ではないか。

国見町総合計画審議会 第1回産業集落専門部会 議事録

日時：2022/05/09 19:00~20:15

場所：国見町観月台文化センター大研修室

<質疑応答>

委員

この過疎地域指定を受け財政的なメリットがあるということは、すごいと思った。過疎地域に指定されることによって受けるデメリットっていうのがあるか。

事務局

指定されまして、デメリットは基本的にはないが過疎のマイナスのイメージはあるかもしれない。即座に何か影響出るということない。

委員

過疎要件のぎりぎりのラインで、それぞれ過疎の条件をクリアしているということで、国が想定している過疎の一番手前の入口であり、ここからどんどん深刻な数字があがってくるのが予想されるが、やっぱりここが踏ん張りどころなんだと思う。

そこで、本当に実効性のある計画を立てて、若い人たちは何かやろうと思えるようなことができるかという重要な局面と感じた。

委員

過疎からの脱却とのことだが、この部会の目的を教えてください。

事務局

この計画を作って過疎から脱却するっていうのは目的として一つあります。町で、今後10年間、どういうことをやっていくのか。町として何が必要なかっていうことを、検討し、こういうことを将来に向けてやらなくちゃいけない。それで結果として、過疎から外れればいいのではないかいいうことでございます。

目的としては、今後10年間、5年間の事業を定めまして、優先順位につままして積極的にやることを定めまして、非過疎化を目指すというところでございます。

委員

NPO法人を作った場合、税制措置はどのようになるんですか。

事務局

税制措置について、町が企業、事業者の法人税を軽減、免除することで税制上の優遇を図り進出しやすくするというような流れになっています。

委員

ふくしま未来も特にきゅうりに力を入れて、桃が30億の売上だとすれば、きゅうりは20億ぐらいの売り上げと言われている。若い人がきゅうりを始めるのに、桃との農薬の違いによる悪影響などがあると聞いている。

委員

森江野には商店がない。年配の方で免許を取り上げられると死活問題で、身近な移動販売などあったら便利と思う。藤田以外も同じ状況であり、買い物はどうするか本当に困ってる年配の方たちが、私たちの周りにいっぱいいる。町の方で、何とかしてもらいたいと思う。

事務局

現実的に、おっしゃる通り、免許、返納になったりして、足がないなどで、買い物に行きたいけど行けない方がいらっしゃると思いますので、その辺は、この場ですぐ即答はできないんですが、そういった部分を何とか町として、例えば、業者と、協議をしながら、委託をしてやってもらうとか、補助を出してやってもらうとか、いろんな手法はあるかと思っておりますので、その辺を今後検討して、この過疎計画の中に盛り込んでいければなと思っておりますので、よろしくお願いします。

事務局

まず実情は本当にそのような状況になっているのは重々承知しております。それで、農業の関係でない分野ではデマンドタクシーなんか、町の方で実施してございますけども、そういう部分の活用などそういう先端的な技術を含めて、なるべくその高齢者が安定料金で移動できるような、そういうシステムも導入していこうというようなことで今検討を進めておりましてそれも当然計画の中には入ってくる。ここで議論する部分でございますけども、そういうものと組み合わせて、ただ現実的に町が、移動販売をするという部分についてはちょっと現実的な話ではないと思っておりますので、商工会さんなどでやっていただければ町で調整できればと思っております。

委員

確かに町中タクシーを利用してくださいって言ったことあるんです。でも結構年配の人たちって、町中タクシーで病院に行った、買い物に行ったという経済的にそんなに使えないっていうのが現実だそうなんです。

年金生活だけではとても大変なので、民間の方に入っているんで、そんなに安くはできないかなと思うんですけども検討して欲しい。

委員

人口減少対策、一番問題なのは、出てく人間を減らすのか、入る人間をふやすのか、そこをしっかりと考えることが重要だと思っております。入ってくる人間っていうのは例えばですけど、こういうメリットあり、すてきなことがあるよっていうことがあると思う。一番大切なのは25歳から40歳ぐらい。家を置く場所をどこに建てようかって決めるときに、国見の魅力を感じないと去ってしまう。

いっぱい空き地があるけども農地で、市街化調整区域で建てられないなどこの問題は解決しなければ

ばいけないと思っている。

農家、企業に対する支援だけでなく、一般の町民向けに地元の工務店を使ってくれたら住宅補助を出すなど、人の流出対策をしていくことも必要ではないか。

事務局

人生の中のライフイベント、結婚するのであれば、国見にぜひ来てくださいとか、子供を産んだらなど、ターゲットを絞って、町のアピールポイントを押さえた上で、取り組んでいければなと考えているところでございます。

事務局

地元の業者を使って建てた場合の支援の話で、実は産業の振興という中には、林業の部分も大きな要素を占めていますので、例えばですけど、国見産材を使って、町内の業者に建設してもらった場合に、町内業者の支援などのメリットがありますので、今後の事業計画の中に、追記を検討していきたい。

委員

質問ですけれども、農業というのを、国見町の売りと考えておられるのか。網羅的な施策が記載されているが、農業の施策がちょっと私にはわかりにくいので教えていただきたい。

事務局

たたき台ということで事業を記載の方をしましたが、国見町の基幹産業は農業ということになりますので、農業の部分でどうやって今後、農業振興を図るかは当然一番重要なところかなと思っています。

当然、農業だけではありませんので、その他の産業振興という大きい括りで進行できるかということになってくると思いますので、意見を出していただきたいと考えています。

委員

国見の魅力を知ってもらうためには、日本人に限らず、世界に目を向けて考えていただきたいなと思います。子供たちの英語教育なんかもね、できればいいかなと思います。

事務局

体験してもらうための滞在型の企画を提供するなど、対象者については、国外の方を対象にということは大切なことだと思います。せっかくの素晴らしい商品を国内にとどめておくだけではなくて、やっぱり外にしっかり、PRをして、取引をしていくのがベストじゃないかという考えも持っています。正直今コロナの関係でなかなか、難しい部分あるんですが、外に目を向けた事業展開もぜひ検討していきたい。

委員

この部会の他にはどんな部会があるのか、この部会の検討範囲はどこまでになるのか教えてほしい。

事務局

当部会の他に移住定住・地域間交流専門部会、教育・子育て・福祉専門部会があり、当部会は農業、工業、商業などの産業のこういった政策が必要なのかということと、担い手の減少と深く関わってくる集落も勘案しながら、今回は一緒にさせていただいたということでございます。

委員

事業内容をみて過疎地域持続的発展にどう繋がるのか分かりづらいと感じた。

事務局

何のために必要なのかということが正直書いてないというところで皆さんにとってわかりづらい部分があるかなと思ったんですが、まずはですね、皆さんの方で、過疎地域に指定されたことを受けて、それを脱却を含めて、もう一度元気にしていこうというときに、産業分野で、こういった事業の展開、こういったことをすれば、少しでもいい方向に行くんじゃないかっていうような、皆さんの視点からの要望とか意見があればですね、ぜひ今日お聞かせいただいて、次回以降追加をしていくという形で、最終的な計画を作り上げていきたい。

委員

計画を作る際に、役場だけで作ってしまうとどうしても狭い目でしか書けないというところもありますので、そこは実際現場で皆さんやっている生の声をぜひお聞かせいただきたいと考えている。過疎債もあって、これまで多くの自治体では、道路とか、公共施設とかハード事業に終わることは多かった。新しい法律のもとでは、市町村計画を策定する時には、住民自治の徹底の観点からの住民の意見が十分に反映市町村に周知すべきだと、住民の方から何が必要なのかを今まで事例を出し合いながら、議論ができればと思います。

会議名 第1回国見町総合計画審議会 教育・子育て・福祉専門部会

日時 令和4年4月21日(木) 13:30~14:40

意見・質疑応答

(委員)

- ・過疎債について、少し調べてみたのだが、不明な点もあるため、制度概要について教えていただきたい。

⇒過疎債については、町が借金をして、その費用を対象事業に充てるということになるが、その費用の最大70%は国が負担する制度となっている。残りの30%は町が負担するというものになっているが、非常に割の良い制度である。(企画調整課長)

- ・子育ても福祉も生涯学習もすべてにおいて、「多様性」ということがポイントになっていると思う。
- ・2020年からの学習指導要領において、学習だけではない人間力を育てるということがあったかと思うが、コロナの関係でニューノーマルな時代になっており、「非認知能力の強化」というものが非常に重要だと感じている。

- ・「非認知能力の強化」は、子どもたちだけに求めるのではなく、学校、家庭、地域全体で強化していく必要があるのではないか。
- ・学びの機会や外に出る機会などがコロナで減ってしまい、学びに向かう力が弱まってしまっているのではないかと危惧している。
- ・不登校や支援が必要な子が増えているが、「多様性」を認めつつ、対応していくことが重要である。小学校高学年や中学生の段階ではなく、早期療育ということで早い段階で対応していくことが重要ではないか。
- ・不登校について、学校に行きたくない・行けない理由は多岐にわたることがあり、複雑なケースが多いが、少し背中を押してあげれば何とか学校に行ける子もいるので、そこは大人からの支援が必要と考えている。

(委員)

- ・ジュニア応援団について、数年前まで何十人規模だったかと思うが、今は数人しかいないようだ。今後はどうしていくのか。
⇒委員おっしゃるとおり、数年前までは何十人規模だったが、昨年度は5名となっている。コロナもあり、なかなか集まらない状況である。今年度は、継続して進めていきたいと考えているが、今後は検討していきたい。(生涯学習課長)
- ・送迎バスを見ても、大きいバスに一人しか乗っていないときがあり、少子化を痛感している。
- ・幼稚園⇒小学校⇒中学校と段階的に進学していくが、高校に入学した際にギャップが生じ、それに対応できない子もいる。そういった子は高校に通うのが非常に苦痛に感じる。
- ・やっと最近出てきた言葉だが、「ヤングケアラー」(家事や家族の世話を日常的に行っている子ども)について。こういった子どもたちは、抱えているものが他の子どもと比べて非常に大きく、常に精神的に緊張した状態にある。こういった子どもたちが、声を上げやすくする環境を大人が作っていく必要がある。

(委員)

- ・人口減少については、日本全国で進んでいる問題なので、人口減少自体が悪いことではないと考えている。
- ・ただし、自分たちが住んでいる地域、国見町に関わる人たち、国見町を良くしていきたいと思う人たちが減っていくことが問題ではないかと思う。
- ・それを打破するために、我々は公営塾ハルのなかで、小中学生に対し色々な学びや経験できる場を提供し、子どもたちには国見町を好きになってもらいたいという強い思いがある。
- ・今後、人口減少・少子化が進むなかで、義務教育学校の話が出てくると思う。全国的にも義務教育学校は増えてきており、良い取り組みではないかと感じている。メリットとして小学1～9年生までの一貫した学びが提供できることが挙げられる。
- ・学校と地域がどのように役割分担をして教育づくりをしていくのか。今後議論が必要だ。
- ・公営塾ハルでは、学校や地域の方と連携しながら、「国見町がどうなっていったらよいか」というところを一緒に考えていながら、教育のあり方を見つけていきたい。

(委員)

- ・小学校で英語講師をしているが、年々子どもたちの数が減っていることを身に染みて感じているが、その一方、手のかかる子は増えてきている印象を受けている。
- ・少子化も悪い側面だけではなく、一人ひとり見てあげられる時間が増えることは、良いことでは

ないかと思う。

- 若い世帯が国見町に移住して、子育てをしていくということを考えたときに、お母さんがポイントではないか。お母さんがどれだけこの町に住む、移住するメリットを感じられるかが重要だと思う。
- お母さんは、仕事や家事、さらにPTA やスポ少などあれば、日中はもちろん、夜も何か集まりがあり、大変忙しい。そのサポートは非常に重要であり、そういったお母さんにきめ細やかなサポートができる町ならいいなと思う。
- 私は、国見町に生まれ育ったが、そういった人は国見町がすごく居心地がよい場所と感じると思うが、他の地域で生まれ育った人は、国見町に移住することに対して、ハードルが高く感じてしまうと思われる。
- そのハードルを取っ払うではないが、地域コミュニティでカバーできれば違ってくると思う。
- 過疎化というのは、今に始まった話ではなく、以前から問題視されてきたと思うが、町で過疎対策としてこれまで取り組んできたことについて教えていただきたい。
⇒移住定住政策というのは、昨年度から本格的に実施してきたが、それ以前から各所管課で子育て支援や定住支援というのを個別に実施してきた経過がある。今後は過疎計画策定を進めていくなかで、全庁的に対応してまいりたい。(企画調整課長)

議 事 録

会議名 第2回国見町総合計画審議会 移住・定住、地域間交流専門部会

日 時 令和4年5月20日（金）15：30～17：00

概 要（事務局説明後の各委員意見抜粋）

- 伊達市にイオンが出店するが、その従業員の居住地として国見町が選択肢に入るような支援策が必要ではないか。
- 藤田総合病院を核にし、医療・保育・介護をワンセットにした事業を打ち出してはどうか。
- 国見町は交通の便が良いが、それが裏目に出てしまい、町内事業所（藤田病院など）に勤める人が町外に移ってしまう要因ともなってしまうので、移住定住政策を考えることは色々な側面があり難しいと感じている。
- 「移住・定住世話やき人事業」の事業主体が地域おこし協力隊になっているが、それは難しいのではないか（お嫁に来てそれなりの年数が経過している人などが適任ではないか）。
- 移住者を受け入れるために、役場だけではなく、地域全体で移住者に対しウエルカムな雰囲気を作り出してほしい。
- 国見町は、保育所も学童保育も待機ゼロで、いずれも公立であり費用も安価であることをアピールした方が良いのではないか。「国見町なら保育所も学童保育も入れるから、女性も働けるよ」と言われたら心が動くかもしれない。
- 観月台公園のように、桜や池、鯉などが揃っているようなところは、近隣では国見町が一番だと思う。

会議名 第2回国見町総合計画審議会 産業・集落専門部会

日 時 令和4年5月18日（水）19:00～20:25

概 要（事務局説明後の各委員意見抜粋）

- 「国見町はイベントのPRが下手」と町外の人から言われることがある。周知方法について検討していただきたい。
- 阿津賀志山山頂にプラネタリウムを整備してはどうか。
- 集落コミュニティの維持に多面的機能支払交付金を活用している。
- 多面的機能支払交付金等の集落の事務処理負担を軽減するために、農村型地域運営組織（農村型RMO）の推進を検討する必要がある。
※「農村型地域運営組織（農村型RMO）」とは、複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと（農林水産省ホームページより）

- 人口減少対策として、移住政策に重きを置くのか、人口流失を防ぐことに重きを置くのが曖昧になっているので、明確にするべき。
- 多くの事業が計画されているが、これほどの事業を動かすことはできるのか。選択と集中の概念が必要ではないか。
- 自動車の運転免許を持っていない人への支援を検討いただきたい。
- 6次化支援事業について、生産者と加工業者とのマッチングも検討いただきたい。
- 自ら地域づくりに取り組む人を行政がしっかりと支援する方針を計画に盛り込んでほしい。

会議名 第2回国見町総合計画審議会 教育・子育て・福祉専門部会
 日時 令和4年5月25日(水) 15:30~17:00

概要(事務局説明後の各委員意見抜粋)

- 国見学園構想について、一貫教育と言っているが、中身が具体的なものに欠けているのではないかと。「国見町で育った子どもたちは、一貫教育によって〇〇ができるんだ」という具体的なものを保護者に示す必要があるかと思う(「あいさつができる」とかではなく、具体的な学習や芸術など)。
- 保護者のニーズが多様化しているなか、町でできるものとできないものがあるかと思うが、それを選択していく必要があると思う。また、できないと判断したものでも視点を変えることによってできるものもあるかもしれない。そのためには、保護者の要望を把握する必要がある。
- 小学生のうちから中学校がどんなところか、中学生のうちから高校がどんなところか、実際に行って見て話すことができれば、それぞれの具体的なイメージが湧きやすいのではないかと。
- 全国的に義務教育学校が増えてきているが、ハードが整っていても、ソフトがうまくいっていない自治体も多くあるようなので、国見町には何が必要なのか議論していく必要がある。
- 義務教育学校をつくるのであれば、これまでの様々な当たり前を覆す良いチャンスになるので、それもメリットの一つだと認識している。
- 学校と地域の連携についてだが、学校の先生方は、これから必要な学びが学力だけではないということは分かっているものの、なかなか忙しくて手が回らないという状況であるため、そこを公営塾ハルが体験型学習など地域として提供できる学びの役割を担ってほしい。
- 過疎から抜け出すために必要な施策として、「⑦医療の確保」になってしまうが、藤田総合病院に産婦人科を復活できないか。伊達市の産婦人科も廃院となってしまう、福島市まで行かないと産婦人科がなくなってしまう。
- 子どもたちの異世代交流について、これまで町の歴史や文化を伝えるなどで、ある程度高齢の人との交流はあったかもしれないが、30~40代など様々な世代との交流も必要ではないかと。

- 細かく事業が掲載されているが、細かすぎてビジョンが見えてこない。漠然とした大きいところを固めていく必要があるのではないか。
- コロナで人を集めるのが難しい状況だが、ネットでアンケートができる時代なので、様々な意見集約手法を検討いただきたい。
- 欠席届について、登校班のところに行って紙で提出するようになっているが、デジタル化が進んでいる時代なので、手法を検討いただきたい（PTA 会長への意見）。
- 地域の人材をもっと活用できる余地はあると思うので検討いただきたい。
- コロナで子育てが大変な時代になっていると思うので、ママ同士のコミュニティの場の提供が必要ではないか。

議 事 録

会議名 第3回国見町総合計画審議会 教育・子育て・福祉専門部会

日 時 令和4年6月21日(火) 13:00~14:30

概 要 (事務局説明後の各委員意見抜粋)

- 人口減少対策としては、移住の推進ではなく、流失を防ぐことが重要であると何度も申し上げてきた。例えば、子どもが大学に通うとなった場合、町から通学してもらえれば交通費を補助する、卒業後に国見町に戻ってきてくれれば奨学金の返済を免除するなど。
- 前回、町に産婦人科を作ろうと提案したが、医師不足が問題であるならば、国見町から医師を輩出するような事業を立ち上げてはどうか。
- 国見町は地震が多い町として有名になってきている。これは負のイメージだと思われるため、そのイメージを払しょくすることが必要ではないか。
- 何事にも手段と目的があるが、目的に一本の筋が通っていないと、手段が目的化してしまう。くにみ学園を作ることは目的ではなく手段であり、国見町の子どもたちや地域がこのようになってほしいということが目的である。その目的を慎重に議論する必要がある。
- 国見町には、体育館やテニスコートなど施設が充実している。それを目的に他市町村から人が来てくれて交流が生まれているので、体育施設の有効活用を図っていただきたい。
- 道の駅に国見町の人あまり行っていないようだ。国見町民に限定しクーポンを発行するなど、国見町に住むことで得られるメリットを分かりやすいものにすることが、若い人を国見町に留めておくのに必要ではないか。
- 仕事上、多くの市町村の計画策定に関わることが多いが、どこの市町村も同じような計画を立てていて、他市町村との差別化ができていない。「国見町といったら〇〇教育がすごい」といった代名詞が欲しい。例えば、「IT教育といったら会津大学」といったように。
- 現在、リーダー教育やアントレプレナー教育(起業家教育)が重要視されている。課題解決能力もその教育の中に含まれるが、小学生から高校生まで接続してそれらの教育をしている自治体はほとんどない。
- 福島市や郡山市は人口が多く、思い切った事業を実施するのはハードルが高いが、人口7千人から1万人の自治体では、言い方は悪いが色々と実験ができる。国見町も色々チャレンジできる環境にあり、魅力的な自治体だと思う。
- 親世代のキャリアに対する考えとして、「良い大学に入ってほしい」というのがあるかと思うが、それは現在あまり関係なく、「自由に面白いことにチャレンジ」できる人材教育が求められている。親と子どものキャリアに対する価値観に齟齬があるので、その擦り合わせが必要である。
- 5~6年前に道の駅をどのようにしていったらよいかというワークショップが開催され、そちらに参加したが、国見町の子どもたちは用意された付箋が全部なくなるくらい多くのアイデアを出していた。これまで多くのワークショップに参加してきたが、そんなことは初めてだったので非常に驚いた。国見町は地域教育がうまくいっていると感じた。
- ノルウェーやスウェーデンなどが教育大国となったのは、20~30年前に種まきをした結果であ

る。日本もそれは分かっているながら、種まきをしてこなかった。それは非常にもったいない。国見町でも地域資源の活用やデジタル教育の先進地となり、その教育を目当てに他市町村から子どもたちが来るようなことになってもらえると嬉しい。

- 町に聞けば色々な情報が得られるのかもしれないが、日常生活において情報は「口コミ」で知ることが多く、あっという間に広がってしまうので「口コミ」の重要性を改めて認識している。
- 現状を変えるには、常識を覆すような取り組みが必要だ。
- くにみ学園を進めていくにあたりワークショップを行うということだったが、叶わなくとも「こうしたい、ああしたい」ということを語り合う場が生まれるのは重要だと思う。

会議名 第3回国見町総合計画審議会 移住・定住、地域間交流専門部会

日時 令和4年6月21日（火）15：30～17：00

概要（事務局説明後の各委員意見抜粋）

- 素案 15 頁について、移住定住世話焼き人事業の記載があるが、その現状と問題点に、「移住した後も地域のつながりが確保しづらい」といった文言を追記してもよいと思う。
- 素案 19 頁に SNS 情報発信事業とあるが、これこそ地域おこし協力隊とか都会の目線や観点を持っている人をお願いするのが重要ではないかと思う。また、発信する内容としては、例えば「若い人の先進的な取り組み」とかではなく、国見の日常にある小さな幸せを発信する方が都会の人には響くのではないか。
- 他市町村にも移住定住コーディネーターがいるが、その存在を知らない人が多い。転入届の際に紹介できるなどの体制があれば良いと思う。
- 数多くの事業が掲げられているが、予算も限られているなか、選択と集中が必要ではないか。
- 町内イベントの周知方法について、SNS や回覧で周知しているかと思うが、回覧も他のものに埋もれてしまうこともあるので、何か他の方法も検討いただきたい。
- 東京くにみ会の再開を希望する。また、仙台や札幌、大阪でもくにみ会ができれば良いと考える。
- 給食費の無償化について、他市町村ではやろうとしてもできないところがある。小さな国見町から実現できた事業だと思う。小さい町だからこそ色々とは他ではできないことをやってほしい。
- 子どもたちには色々な経験を積んでもらいたいと考えているので、是非海外研修を行ってほしい。
- SNS の時代であるが、給食や制服が「映える」ものになると、子どもたちのためになるかと思う。
- 移住定住世話焼き人事業だが、国見町にお嫁さんで来た人を活用することも検討いただきたい。町外の知見もあり、有効だと思う。

会議名 第3回国見町総合計画審議会 産業・集落専門部会

日時 令和4年6月22日(水) 19:00~20:10

概要(事務局説明後の各委員意見抜粋)

- 物価上昇や円高など先が読めない状況にあり、本計画についても R7 までとなっているが、柔軟な対応が必要だ。
- 素案 9 頁に⑥「町として生きるまち」とあるが、合併しないで生きていくまちという意味合いであれば、そのような説明を入れた方が良いのではないか。
- 梁川町は町中心部の人口減少が著しいと聞いた。その原因は、自然災害とのこと。令和元年台風 19 号で梁川町中心部は甚大な被害があったが、そこに住んだり、家を建てようとは思わないのだろう。国見町も水害や地震など、自然災害が多いまちなので、同様のことが言えるかもしれない。
- 農業経営強化基盤促進法が改正され、人・農地プランが法定化された。これまで以上に行政が地域に入って話し合いをする必要があるので、農地・集落の維持の支援をしっかりとお願いしたい。
- 新規就農者としてキュウリを作っているが、農家の知り合いから「国見は風が強いからキュウリは向かないよ」と言われた。傷つきやすいという意味だと思うが、強風対策があればありがたい。
- 素案に「イチゴ収穫体験事業(新)」とあるが、霊山町などでイチゴは規模が大きくやっているので、そこに対抗する必要はないのではないか。また、事業費 3 千万円とかなり高額なので不安だ。
- イチゴのみに拘る必要はなく、「イチゴなど」として、イチゴ以外にも色々な農作物でチャレンジしてもよいのではないか。農園の収穫体験などは、そこが目的地になるぐらいパワーを持っている。国見にも魅力あるものがあれば、他県や県内遠方からでも来てくれる。
- 本計画の評価方法について、各事業に KPI を設定するというのはなじまないものとする。総合的な評価が必要ではないか。例えば、人ベース、集落・地域ベース、団体・組織ベースで評価することも重要である。